

「経済合一説」の実践に取り組む

性化すること。また、今までの京都での取り組みを再検討し、京都といえば京阪という地位を得ること。この二つがメインです。天満橋から中之島線延伸事業は、わずか2.9キロですが、社会へのインパクトは大きいと確信しています。

また、京都は王城の地であり、かつての日本そのものでした。現代でも世界で京都といたら、知らない人はいないでしょう。この歴史のある京都で当社はもっと貢献しようと考えました。そして中之島は京都にはない魅力ある空間にして、京都に住む方々だけでなく、京都にいらっしゃる年間5千万人の観光客も中之島にも行ってみようと思える場所を作り上げたいと思っています。地域の魅力向上は何も行政だけの仕事ではありません。鉄道は行政区域をまたがって走っていますが、ここに、我々の果たすべき役割があると思っています。行政では何事も行政区ごとになっています。しかし、当たり前ですがお客さまは行政区域に関係なく移動しています。我々鉄道業者はもっと自覚して、我々の出来ることを考えないといけないと思っています。

SIAI . ピジョンのもうひとつの柱である、お客さまからの信頼を維持・向上するための安全安心への取り組みについて、現在行われているものをご紹介しますか。

佐藤 当社を「事故のない京阪」とご評価いただくことがあり、大きな財産だと思っています。当社は昭和41年、蒲生信号所(大阪市城東区)前で、列車追突脱線事故を起こしました。その大きな反省から安全には真剣に取り組んできました。「運転保安委員会」という会議体を定期的を開催することで、事故が起きる盲点が隠れていないか常に検証し、他社で事故が発生すれば、当社の場合には同種の事故が発生する可能性はあるのかないのか調査を行うといった地道な活動に真摯に取り組んできました。平成17年のJRの事故を機に組織をさらに強化し、名称も「鉄道保安総合委員会」としました。運転に携わるトップの役員を委員長にして、多くの実務者が出席し、議論、実践してきました。どんなささいなことでも取り上げ、当社は大丈夫だと思えるように取り組んでいます。

代表取締役社長

佐藤 茂雄

